

<研究ノート> Ethel Smithをめぐって

OHSHIMA, Yoshiaki / 大嶋, 良明

(出版者 / Publisher)

法政大学国際文化学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

異文化. 論文編 / 異文化. 論文編

(巻 / Volume)

18

(開始ページ / Start Page)

231

(終了ページ / End Page)

240

(発行年 / Year)

2017-04-01

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00013809>

〔研究ノート〕

Ethel Smith をめぐって

Notes on Ethel Smith

大嶋良明

OHSHIMA Yoshiaki

1. Ethel Smith とピッツバーグ

ポピュラー音楽におけるオルガン演奏の名手にして 1940 年代から 1950 年代にかけてラジオやレコードで活躍した「ハモンドオルガンのファーストレディ」こと Ethel Smith（本名 Ethel Goldsmith）は 1902 年 11 月 2 日に米国ペンシルヴァニア州ピッツバーグ近郊の Charleroi に生まれた。カーネギー工科大学（のちのカーネギー・メロン大学）で Caspar Koch にオルガンを、Selmar Janson にピアノを学



図 1 Ethel Smith¹

んだのち、劇場専属のオーケストラでピアノを演奏していたところを Shubert Theater のマネージャーの眼にとまり、ミュージカル Blossom Time の旅公演に参加したのが芸能活動の出発であった。

1936 年頃のことカリフォルニア滞在中に映画スタジオからの仕事で、世に出たばかりのハモンドオルガンを弾く機会に恵まれた彼女は、すっかりその魅力の虜となり、以後はハモンド販売店のショールームのデモンストレータとして腕を磨くが、ほどなくフロリダのホテルで

1 写真註：Billboard Music Yearbook 1944, p139, Nielsen Business Media.

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Ethel_Smith_Billboard.jpg

の仕事を引きかけとして南米にわたる機会がめぐってきた。もとより関心の深かった躍動的なラテン音楽のリズムに触発され、当地で耳にした音楽を彼女なりの解釈で演奏した曲が Tico Tico であり、この曲が米国内でも爆発的に流行し生涯にわたる代表作となった。1940年代はじめに帰国し、CBS のラジオ番組 Your Hit Parade や映画 Bathing Beauty (「世紀の女王」、1944 年) や Melody Time (1948 年) に出演するなどの活躍で名声を得た。

1951 年 10 月末にピッツバーグを訪問した Smith は初の里帰り公演²を成功させるが、会場には教え子の演奏を聴きに訪れた恩師 Koch や Janson の姿もあった。オルガン奏者として脚光を浴びた Smith だけに地元紙は Koch と Smith をよく話題にしたようである。永年ピッツバーグ市の公式オルガン奏者を務め、バッハの研究家でもあった長老格の Koch 博士とショービジネスの世界を華やかに生き、卓越した演奏技術のみならずコメディエンヌとしての才も兼備した Smith との人物像の対比が読者の関心と呼んだのであろうか。

芸能人にありがちなことではあるが、Smith についての記事は数多く残っているものの寸評、逸話、ゴシップに属する断片的なものが大半を占めており、故郷の人々との交情はあまり明らかにはなっていない。しかし Koch と Smith については、そのオルガン学徒としての師弟関係をうかがわせるものが一点残されていることは興味深い。

2 E. Rosenblatt, "Jazz Organist Recalls Starts Here," Pittsburgh Post-Gazette, p. 19, Oct 26, 1951. [オンライン]: Newspapers, <http://www.newspapers.com>. [参照 Oct 30, 2016].

Transcribed for my pupil
Ethel Smith
GIGUE

Registration: Violone 16, Violoncello 8, Cornet V
HAMMOND ORGAN: Pedal 85

JOHANN SEBASTIAN BACH *
Arranged for Pedal Solo by
Caspar Koch

(Presto)

PEDAL SOLO

図2 Koch 編曲による J. S. Bach の Gigue 冒頭部分

図2は Koch が Volkwein から出版した *Bach Two Organ Transcriptions*³ の第2曲の冒頭であるが、そこには「我が生徒 Ethel Smith のために記譜」と記されている。原曲は J. S. バッハの無伴奏チェロ組曲第4番変ホ長調 (BWV1010) の終曲ジークであるが、これを Koch はペダルソロ (オルガン足鍵盤の独奏曲) としてまとめた。速いテンポでトリプレットが連続する譜面にヒールとトゥを交互に使い分ける指定がなされていることがわかる。この楽譜は 1951 年頃の出版物と考えられ Smith の里帰り公演と同時期のものである。Smith のペダル奏法はハイヒールのつま先を蠱惑的にポイントする独特なもので、マレーネ・ディートリッヒ張りの脚線美を聴衆に見せて人気を博していた⁴ ことを想起すると、この楽譜は Bach に立ち戻ってみよう Smith を促す恩師 Koch のメッセージであるかのように見える。公演ではバッハの「小フーガト短調」やドビュッシーの「月の光」などを演奏することもあった Smith であるが、果たしてこの曲を演奏したかどうかは定か

- 3 C. Koch, "Bach. Two Organ Transcriptions by Caspar Koch: Hammond Organ Registrations by Porter Heaps," Volkwein Bros, c1951.
- 4 E. Wilson, "Nicest Pair of Dietrichs This Side of Dietrich Owned by Ethel Smith, Pittsburgh-Born Organist," Pittsburgh Post-Gazette, p. 66, Mar 27, 1949. [オンライン]: Newspapers, <http://www.newspapers.com>. [参照 Nov 6, 2016].

ではない。

2. Caspar Koch とピッツバーグ

Caspar Petrus Koch は 1872 年にドイツで生まれ家族とともに米国イリノイ州に移住した。12 歳で父を亡くしたが 1890 年からウィスコンシン州 St. Francis の St. Francis Catholic Normal School で John B. Singenberger について音楽を学んだ。同校は教員養成を主とするカトリック系の職業校であったが、同時に音楽教育にも注力しており多くの音楽家を輩出した。Koch はその初期の卒業生のひとりであり、師の末娘 Myra と結婚して卒業後は教会オルガニストとしての職を求めてペンシルヴァニアに戻った。才能ある音楽家、教育者としての力量を認められた Koch は 1904 年にはピッツバーグ市のオルガニストとして任命を受け、Allison Park の Holy Trinity Church のオルガニストと合唱指揮を務めながら 1904 年から 1914 年までは Duquesne University において、1914 年から 1941 年までは Carnegie Institute of Technology (CIT) において音楽科の教授として教鞭をとった。その間 1924 年に North Side のカーネギー音楽堂 (Carnegie Music Hall) のために Ernest Skinner オルガンを設計し、1954 年に引退するまで生涯にわたってここで演奏活動を続けた。

音楽教育家としては *The Organ Student's Gradus ad Parnassum*⁵ (「オルガン教程」) やバッハの「8つの小前奏曲とフーガ」などのオルガン譜⁶ を出版するかたわら、他にオーケストラ作品をオルガン向けに編

5 C. Koch, "Organ student's gradus ad Parnassum Book I: The Elements of Interpretation," New York, J. Fischer, 1945.

C. Koch, "The Organ Student's Gradus ad Parnassum Book II: Progressive Organ Studies," Volkwein Bros. Inc., Pittsburgh, PA, 1950.

6 J. S. Bach, C. Koch (ed.), "Eight Little Preludes and Fugues for the Organ," Volkwein Bros. Inc., Pittsburgh, PA, 1949.

曲した楽譜を出版し自身のリサイタルで演奏するなどしてオルガン音楽の普及に努めたと伝えられる。ピッツバーグでは Andrew Carnegie が 1890 年に市のオルガニストにパイプオルガンを寄贈したのを機に、市民のために無料のオルガン演奏会が毎週開催されるのが恒例となった。Caspar Koch は 3 代目のオルガニストとして 1914 年に第 1000 回、1939 年に第 2000 回を演奏しており、跡を継いだ息子の Paul Koch が第 3000 回を 1967 年に演奏した。このシリーズは 1979 年 1 月にカーネギー音楽堂改築のためにオルガンが取り壊されるまで続けられた。

ほかにも 1947 年 12 月 3 日付けの CIT 学内報には 11 月 25 日に Koch 博士の 75 歳の誕生日を祝賀する行事が執り行われたこと、David Lawrence 市長により Dr. Caspar Koch Day が制定されたこと、カーネギー音楽堂において教え子たちによるオルガンリサイタルが催されたことなどが報じられている。さらに学内報は Koch 博士が 1941 年 6 月に退職するまで 27 年間にわたり CIT の音楽科教授としてオルガンを教えたことにも触れており、改めてその貢献の大きさを窺い知ることができよう。

さて前項において Koch 編曲のペダルソロに触れたが、この項の最後にもうひとつのペダルソロについても触れておきたい。

[Concerto, organ, A minor. Antoniazzi]

M 786,8
M 6700
Cop. 2

MIT 2486

Perpetuum Mobile

PEDAL SOLO
On a Theme by Bach

SW: 64 8756 444
GR: 67 8754 000
Ped: 75

WILHELM MIDDELSCHULTE
(1863-1943)
Edited by Caspar Koch

Allegro energico ma non presto

TIMPANI
G, A, D, E

PEDAL SOLO

図3 Koch 編曲による Middelschulte Perpetuum Mobile の冒頭部分

図3はドイツに生まれ永く米国で活躍したオルガン奏者、作曲家の Wilhelm Middelschulte による Perpetuum Mobile (無窮動) を Koch が編曲したもの⁷である。この曲は若くして Middelschulte に師事しオルガン奏者として名を馳せた Virgil Fox のために、バッハのホ短調フーガ (BWV548/2, "The Wedge") の主題をもとに 1941 年に作曲された足鍵盤の独奏曲である。ちなみにこの曲には Fox 自身が注釈をつけた譜も出版されており、エンディングで4声の最高部(ソプラノ)がB-A-C-Hになることの記述や、アクセント指定における Fox 版と Koch 版との異同等が確認できる。Fox 版ではピアノシモに始まりフォルティッシモで終了するように指定されているが、図に見るように Koch の譜ではフォルティッシモから始まっている。また Fox 版は純

7 W. Middelschulte, C. Koch (ed.), "Perpetuum Mobile Pedal Solo by Wilhelm Middelschulte on a theme by Bach timpani and piatti ad libitum," Volkwehn Bros Inc, Pittsburgh, PA. 1951.

然たるペダル独奏であるのに対し、Koch 版ではペダル独奏にティンパニとシンバルを加えた構成となっていることは興味深い。

3. Volkwein's Music と音楽出版

Volkwein's Music は創業 1888 年のピッツバーグの老舗楽器店⁸である。現在もピッツバーグ郊外に店舗を構え楽譜や楽器の販売、レンタル、修理などを行っている。過去に数多の楽譜を出版しレコードを制作した音楽出版社でもあったことが知られている。

Jacob C. と Rudolph G. Volkwein 兄弟がドイツのブライバッハから移民として米国の地を踏んだのは 1895 年であった。叔父とともに Allegheny City (現在のピッツバーグ) で地元の鋳物工場で働き始めた。Jacob は英語が話せないことと同年輩の友達ができない孤独な心を、コンサート・ツィターを演奏することで紛らわせていたということであった。ツィターのケースを求めて訪れた Smithfield Street (ダウントウンの目抜き通り) にあった F. Bethel Music Store で Jacob は働き口を与えられ、弟も店員兼雑用係として雇われた。店主の Bethel 夫妻が 1905 年に事業から引退した折に Rudolph が店を買取り、兄を共同経営者として Volkwein's Music は開店した。

当時の米国はアマチュアの音楽愛好家にあふれていた時代で、事業は隆盛をほこり 1956 年に Jacob が引退した時には店は米国内で十指にはいる規模にまで成長、楽器販売の他にも音楽レッスンや修理部門にまで事業を拡大していた。彼らが特に注力したのは学校や音楽教師向けに楽器や楽譜を販売する事業であった。

1921 年に開店する Mellon Bank のために店舗が Smithfield Street から同じダウントウンの Liberty Avenue に立退きを余儀なくされた際に、Jacob は一計を案じて地元の販売代理店 7 軒とピアノの販売権と楽譜

8 Volkwein's Music [オンライン] <https://www.volkweinsmusic.com/> [参照 Oct 30, 2016]. ただし、創業年度については 1905 年と考えるべきであろうか。

の販売権を交換する事業転換を図り、ピアノ販売から撤退することで、かなりの台数のピアノを新規店舗に移動する経費を節約することができた。ピッツバーグ随一の楽譜販売店としての始まりであった。彼らは楽譜の扱いに長じており、1934年には\$15,000をかけて楽譜のファイリングシステムを構築して、音楽家たちの求めに応じて網羅的な検索サービスを提供した⁹。さらに彼らは楽譜の販売に留まらずに音楽出版事業にも進出しさまざまな音楽作品の出版、普及に貢献した。例えば Caspar Koch によるオルガン教本の第2巻のほかにも数篇のオルガンスコアが Volkwein から刊行されている。この出版部門は1982年に Columbia Pictures に売却されるまで続いた。

Volkwein 兄弟に話を戻すと、弟 Rudolph は1954年1月に他界、その直後に Jacob の妻 Mary が他界し、兄 Jacob は2年後の1956年に事業から身を引き、Rudolph の2人の息子 Carl と Walter が叔父から家業を受け継いだ。Jacob は長命で1984年12月に他界した。1965年に Volkwein Music はダウントウンから North Side の Sandusky Avenue にある7階建てのビルに移転した。この時まで店の事業は卸売りまで規模が拡大しており、在庫のために十分な店舗面積を確保したのであろう。その後1990年に建物全体がカーネギーに売却されて、店舗は郊外に三度目の移転をおこなった。このような経緯で North Side の Volkwein が立ち退いて開館したのが現在のアンディ・ウォーホル美術館 (The Andy Warhol Museum) である。

9 “Musicians Are Helped--Volkwein Brothers Have Comprehensive Index System,” The Pittsburgh Press, p.22, Aug 21, 1934, [オンライン] : Newspapers, <http://www.newspapers.com>. [参照 Oct 30, 2016].

参考資料

Ethel Smith 関連

P. Pelletier, "Ethel Smith—The First Lady of The Hammond Organ," in "Ethel Smith—The First Lady of The Hammond Organ," JASCD404, [CD]. London, September, 2002.

P. Dempsy, "Ethel Smith—She's Got Rhythm!" in "Ethel Smith—She's Got Rhythm!" BYD77039 [CD]. Delta Music Group, Kent, UK, 2009.

Matthew Brown and Elizabeth Galand, "Ethel Smith: Weird Organ Lady or Mondo Organista?" Cool and Strange Music! Magazine, issue 18, pp. 16-19, Everett, WA : Dana Countryman.

Csspar Koch 関連

R. A. Skeris, "Musica sacra in the Archdiocese of Milwaukee" in Paul Collins (ed.), "Renewal and Resistance: Catholic Church Music from the 1850s to Vatican II," pp. 199—200, Peter Lang, 2010.

The Church Music Association of America, "Sacred Music," Volume 100, Number 1, p10, Spring 1973.

Faculty Bulletin, Carnegie Institute of Technology, No. 12, Series 1947-1948, December 3, 1947.

Volkwein 関連

Union Dale Cemetery, "Jacob C. and Rudolph G. Volkwein--Music store proprietors," [オンライン] <http://www.uniondalecemetery.org/notables-detail.php?notableID=33> [参照 Oct 30, 2016].

"Jacob Volkwein Exits in Swan Song Time," The Pittsburgh Press, p. 22, Jan 15, 1956, [オン

ライン] : Newspapers, <http://www.newspapers.com>. [参照 Oct 30, 2016].

“300 Students Enrolled in Volkwein Courses,” The Pittsburgh Press, p.10, Jan 27, 1935, [オンライン] : Newspapers, <http://www.newspapers.com>. [参照 Oct 30, 2016].

Marylynne Pitz, “Evolution of the Andy Warhol Museum,” Pittsburgh Post-Gazette, October 4, 2013. [オンライン] <http://newsinteractive.post-gazette.com/thedigs/2013/10/04/evolution-of-the-andy-warhol-museum/> [参照 Nov 8, 2016].